

(別紙5)

整理番号 2020P-249  
補助事業名 2020年度 消費者にとって「安全・安心」な社会をつくる活動等【緊急支援】補助事業  
補助事業者名 一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟

## 1 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

新型コロナウイルス感染症拡大の防止に最大限努めながら、安全・安心な大会運営を行い、年間を通じて、全国各地の自転車競技を志す、愛好するチーム、選手のために競技の場を提供し、競技の普及、振興、健康増進に努め、もって公益の増進に寄与します。

### (2) 実施内容

#### A Iサーモグラフィカメラの整備等

- ・大会会場の一か所に限定した入口に設置した検温テントにて、来場者に「A Iサーモグラフィカメラ」を使って体温測定を行いました。発熱の疑いのある方は、別途、離れた場所で、個別に体温計を使って検温を行い、発熱が判明した場合、発熱者及び帯同者は退場していただくルールでしたが、該当者はいませんでした。
- ・会場内では、随時、放送により、マスク着用やオフィシャルディスタンスについて、注意喚起をしました。
- ・受付等、人が接する場所などでは、ビニールカーテンで囲ったり、アルコール噴霧器を設置したりして感染対策を行いました。



1.検温テントに設置されたA Iサーモカメラとモニター。  
カメラ導入により、入場口での混雑を緩和することができました



2.ID受渡テントでの受付状況

(別紙5)



3.会場内ではマスクをつけ、密集を避けての行動（検車エリア）



4.表彰式の待機中の入賞者もソーシャルディスタンスを保ちました

<2020年度にA I サーモグラフィカメラ等を設置して感染対策のうえ開催した大会>

8月22-23日 群馬CSC 交流戦 8月大会 Day-1, 2（群馬サイクルスポーツセンター）

8月29-30日 西日本ロードクラシック 広島大会 Day-1, 2（広島中央森林公園）

9月26-27日 広島森林公園ロードレース Day1, 2（広島中央森林公園）

10月3日 おおいたいこいの道クリテリウム（大分県大分市）

10月4日 おおいたサイクルロードレース（大分県大分市）

10月10-11日 経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ Day-1, 2（群馬サイクルスポーツセンター）

10月17-18日 全日本トラックチャンピオンシップ（境川自転車競技場）

## 2 予想される事業実施効果

新型コロナウイルス感染症拡大の防止に最大限努めながら、安全・安心な大会運営を行い、多くの自転車競技会を開催し、全国のチーム、選手に競技の機会を与え、競技を続けるうえでのモチベーションアップに繋げること等により、自転車競技の普及、振興の一端を担います。

## 3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

なし

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

なし

(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟（ゼンニホンジツギョウダ  
ンジテンシャキョウギレンメイ）

住 所： 〒141-0021  
東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル5階

代 表 者： 理事長 安原昌弘（ヤスハラマサヒロ）

担 当 部 署： 事務局（ジムキョク）

担 当 者 名： 平木里美（ヒラキサトミ）

電 話 番 号： 03-5475-8781

F A X： 03-5475-8740

E - m a i l： s.hiraki@jbcf.or.jp

U R L： <https://jbcfroad.jp/>

2020年度 JKA 緊急支援補助事業（2020P-249）

一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟

自己評価委員会 議事録

日 時：2022年2月21日（月）20:20～21:00

場 所：Web 会議システム（ZOOM）

出 席：安原昌弘（議長）、浅田颯、今中 大介、加地邦彦、栗村修、小島裕樹、佐藤成彦、田中真美子、丸田貴之、村上嘉之

事務局：力石達也、平木里美（書記）

## 1. 議 題

「2020年度 消費者にとって「安全・安心」な社会をつくる活動等【緊急支援】補助事業」について、事前計画と対比し評価を行う

## 2. 議事概要

19時から開催していた理事会の終了後、JKA 緊急支援補助事業の評価委員会を行った。事務局から同事業の事前計画と比較した個別項目評価案が示され、それに基づき、委員会にて総合評価を行った。

### (1)事業全体についての意見・所感

新型コロナウイルス感染症拡大の防止に最大限努めながら、安全・安心な大会運営を行い、年間を通じて、全国各地の自転車競技を志す、愛好するチーム、選手のために、競技の場を提供し、競技の普及、振興、健康増進に努めることができた。ただし、新型コロナウイルス感染症が根絶したわけではないので、緊急事態宣言やまん延防止措置が繰り返され、行動自粛が続いている状況である。そのため、開催地では、観光等による、地方活性化に協力できる状況ではなかったが、新しい生活様式の中で、今後も補助金を活用させていただきながら、積極的な大会開催を通じて、自転車競技の普及に努めていきたい。

### (2)優れている点、課題、改善点

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国各地で、あらゆるスポーツ競技会は中止、延期を余儀なくされたが、補助金にて、AIサーマルカメラを導入することで、密を避けた検温体制が整えられ、他団体に先駆けて、安全・安心な大会運営を再開し、年間を通じて、全国各地の自転車競技を志す、愛好するチーム、選手のために、競技の場を提供し、競技の普及、振興、健康増進に努めることができた。

### (3)その他アピールしたい点

自転車競技大会のキャンセルが続く中、緊急支援の補助金にてAIサーマルカメラを導入による検温体制を整え、開催のためのガイドラインを策定するなど、いち早く、競技大会を開催することができ、他の団体や自治体などがその運営の様子を見学を訪れ、ノウハウの情報共有をすることで、他団体等による競技大会の実施に関しても協力できたと思われる。

以上

（文責：JBCF 事務局）